

【展示会情報・ベジタリアン市場について】

【台北国際夏季・秋季旅展】

6月に開催予定であった夏季旅展がコロナ感染者拡大により延期され、10/1～4に開催されました。コロナ以前の2019年度は参加企業数約150企業、来場者数30万人超でしたが、本年度は海外旅行展示等の大幅減少により、参加企業数30企業、来場者数約5万人程度と小規模開催となりました。

特価旅行商品を販売する同展示会ですが、旅行の楽しさと食は密接に結びついているという認識から、近年は食品ブースの展開も目立ち始め、北海道関連では北海道米、ナマコ、ホタテや日本酒等の展示販売が見られました。日本ブース担当者によると、日本産食品の扱いは初となる同企画は、日本渡航が未だ出来ない中、日本産食品を訴求する事で来場者の購買意欲を刺激することが狙いであるということでした。

海外旅行の解禁は当分難しく、**今後は旅行と併せて食品をプロモーションする機会が増える可能性があるとの事で、北海道産食品の販売拡大にとってもチャンスがあるもの**と考えます。



(株)Wakka Japanの現地法人による日本産米専門店「三代目俵屋玄兵衛」も出展

【台北国際素食展暨茶藝博覽會】

今年で15回目となる「ベジタリアン食とお茶に関する商品展示会」が、貿易センターで開催され、日本各地の特産品を扱う輸入卸販売業者「第一名店」が日本産のベジタリアン食品をプロモーションしました。コロナ禍で自宅で調理をする人が増えたこともあり、本年度の同社の売上は過去最高を記録しました。中でも、特に**ベジタリアン食品の売上の伸びが著しいことから、更に取り扱いを増やしたい意向で、特に関心が高い商材は、だし、調味料、大豆ミート等**とのことでした。

肉類、魚類、卵、乳や五葷（ごくん＝ねぎ・にんにく・にら・らっきょう・玉ねぎ）を食さない厳格なベジタリアンと、畜肉のみを忌避するベジタリアンとが混在する台湾では、その人口が更に増えている統計もあり、**北海道産食品ならではの食材を活かしたベジタリアン食品も将来有望**と考えます。



第一名店の出展ブース



【台湾素食（ベジタリアン）市場動向】

『食力』（台湾食品データベース）によると、台湾におけるベジタリアンは宗教的な要因だけではなく、健康志向や環境意識の高まりの中で、土地、季節、環境に配慮した食材を選択することに重点を置き始めているとのこと。

2019年のデータでは、台湾全人口2,300万人のうちベジタリアン人口は299万人(13%)だったのに対し、2020年には664万人(29%)と大きな増加が見られ、人口比率ではインドに次いで世界第2位のベジタリアン大国となりました。

ベジタリアン専門の飲食店も、台湾全土で展開されるようになっており、市場規模は既に600億元(約2,300億円)に達しているとの報告もあります。

国際的な環境問題への配慮から低炭素野菜食品への関心も高まっており、**台湾ベジタリアン市場は今後更なる拡大が予想されています。**

【喫食可能食材による代表的なカテゴリー区分】

台湾ではベジタリアン食材も厳格に区分けされており（下表参照）、多くは食品裏面等の記載で識別出来ます。

区分	適用
全素	肉類、魚類、卵、乳、五葷（ねぎ・にんにく・にら・らっきょう・玉ねぎ）を含まない料理・食品
蛋素	肉類、魚類、乳、五葷（ねぎ・にんにく・にら・らっきょう・玉ねぎ）を含まない料理・食品
奶素	肉類、魚類、卵、五葷（ねぎ・にんにく・にら・らっきょう・玉ねぎ）を含まない料理・食品
蛋奶素	肉類、魚類、五葷（ねぎ・にんにく・にら・らっきょう・玉ねぎ）を含まない料理・食品
植物五辛素	肉類、魚類を含まない料理・食品

【販路開拓のポイント及びアドバイス】

今後ニーズが拡大するベジタリアン食材としては、**大豆ミート使用食品、大豆ヌードル、各種調味料（トマトソース、ポン酢、パスタソース、カレー調味料等々）**などが挙げられ、**台湾ベジタリアンニーズと北海道産商品の相乗効果で販路拡大が大きく期待できる**ものと思います。販路開拓などのご相談は、是非当アドバイザーへご相談ください。



素食とヴィーガンにも対応するレストランメニュー例



ショッピングモール内
素食向け
buffetスタイル料理